

# F LYING FISH

# 55

2013 SUMMER

[ フライイング  
フィッシュ ]



## INTERVIEW

### 磯部雅彦 副学長

自然と共生しながら“命を守る”  
次世代の  
「津波対策」とは？

## NEWS

平成25年度入学式 — 広く深く。  
豊かな人間力を育もう

国際人を目指し、異文化体験!

### 海外研修 in Thailand

## KUT INFORMATION

キング・モンクット工科大学(ラッカバン)と大学間交流協定を締結/物部川環境保全活動に参加/バイクの安全教室を開講/AO入試 特別推薦入試入学のツワモノたちを激励/春の交通安全キャンペーンに参加/母国の文化再発見も留学生日本文化研修を実施/本学の最先端技術にも脚光国内最大級の展示会に出展/本学地域連携機構が主催南海トラフ巨大地震対策を推進/鏡野公園バス停が完成/土佐の有用植物を学ぶ第一回『食のキャラバン』開催/外国人学生が香美市長を表敬訪問/本学で国際化学オリンピック日本代表が訓練宿泊/国際学会で本学大学院生が学生賞受賞/織田哲郎氏が楽曲提供 よさこい踊り子隊始動!/男子バスケットボール部が全四国大学新人大会で準優勝/天皇賜杯・皇后賜杯全日本選手権大会へ!ソフトテニス部が快挙!/全日本大会へ祝優勝!男子ソフトボール部/男子バレーボール部が中国四国学生選手権大会3位!/継続的な活動を目指しココイコプロジェクト始動/オープンキャンパスのお知らせ

## 表紙のコトバ=海岸を見守る

安全で美しい海岸で、海の仲間がいきいき暮らせるよう、磯部先生は今日も世界中の海岸をパトロール中!先生が現場を何よりも大切に理由とは?



# 自然と共生しながら “命を守る” 次世代の「津波対策」とは？

### 現場を見るからこそ海岸工学のカギ

近い将来、確実に起こると言われている南海トラフを震源とした巨大地震。高知県の沿岸部は全国で最も大きな津波の到来が予測されている。

今年4月に副学長として本学に着任した磯部雅彦先生は、海岸工学分野の第一人者であり、中央防災会議・専門調査会の委員として、東日本大震災による大津波の調査・分析を行い、復興への道筋を示してきた。「高知県は南海トラフの地震津波が大きく取り上げられているところです。そういう意味でも、本学への赴任は私にとって意義深いことですし、すごく縁があるなと感じました」。

実際に現場を見れば、津波が起きた時に、どのように構造物が壊れていったのかわかるという磯部先生。例えば、壊滅的な被害を受けた岩手県の宮古湾に面した

金浜地区では、堤防の海側はほとんど損傷がなく、陸側だけがめくれ上がっている箇所が多く見受けられた。それにより堤防内の土砂が流出して空洞になり、崩壊しているところも多かつたそうだ。

「海岸工学においては、理論解析はもちろんです。なにより“現場を見る力”が重要です。理論が頭に入っていると、現場を目にした時に何が起きているのかが見えてきます」。

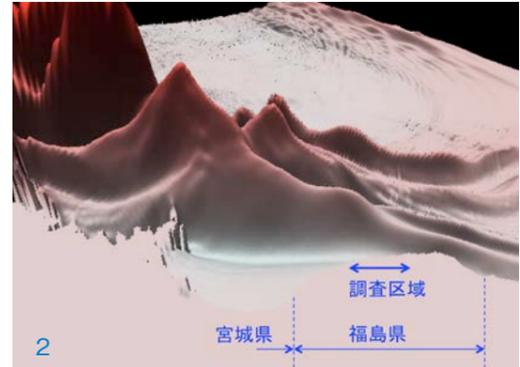
現場を見た後に研究室で実験をすることで、その現象の裏付けが可能になる。こうした理論と現場の結びつきこそが海岸工学の醍醐味だという。

磯部先生はこの調査結果を踏まえて、今後つくる予定の堤防は陸側を強化し、粘り強い構造にする必要があると提案。さらに最大クラスの津波対策として、非常に高い堤防をつくることは、莫大な費用がかかる上、陸から海が見えなくなるなど、自然環境との共生の面で問題が生じるのではないかと、との提言を行った。1000年に一度の大津波に対して、寿命が100年程度の構造物を10回つくり替えるのは、やはり合理的とは言えない。そうした議論の末、数十年から百数十年に一回という発生頻度の高い津波に関しては、堤防などの構造物で浸水を防止する一方、最大クラスの津波については、ある程度の浸水は許容し、迅速な避難によって人命を守ることを優先するという方針が決定した。想定外をなくすためにも、構造物に頼りきるのでなく、どう逃げるかというソフト面をうまく組み合わせることが大切で、それこそが被害を最小限に食い止める一助となるに違いない。

では、いざ地震が発生したとき、私たちはどう行動すればよいのだろうか。「大津波警報が出たら、必ず逃げてください。一番大きいと言われる第二波は、陸からかなり遠い沖の方で発生する



左地図)ただの日本地図かと思いきや、こちらは磯部先生が訪れた海岸を点でつなげたもの。国内はほぼ網羅している。



1.津波によって陸側が損傷した堤防。津波が堤防を超えた箇所が多く見られたという。  
2.東北地方太平洋沖地震津波のシミュレーション。岩手県沖で最も高い津波が観測された。  
3.磯部先生が最もお気に入りだというメキシコ湾に面したフロリダのグレイトンビーチ。石英分99%という真っ白な砂浜が特徴で、雪山のような美しさを誇る。世界中の砂浜が減少している状況の中、このような美しい砂浜を守るための取り組みが急務となっている。

ことが科学的にわかっているのに、地震のすぐ後にくることはありません。高知県では、第一波から第二波が到達するまで30分以上の時間があるので、その時間を使って、できるだけ高いところに逃げるといのが一番大事なことです」。

日頃から避難想定をしておくことが、自分の身を守ることにつながる。

### 不思議を解明していくから学問はおもしろい

海岸は自然界の面白さを深く体感できる場所でもある。探せば探すほどいろんな発見ができ、無限の可能性を秘めているのだ。

東京出身の磯部先生は、小学生の頃から、夏休みになると毎年欠かさず鎌倉にある母親の実家に滞在し、水を得た魚のように毎日朝から晩まで海で遊んだという。「朝は砂浜だったところが昼にはあっという間に海になっていたり、7月の海はすごく静かなんですが、8月のお盆の時期になると、風も吹いていないのに途端に波が高くなったりと、海には不思議なことがたくさんありました。いくら遊んでも飽きることはなかったですね」と磯部先生は笑顔を見せる。

神秘的な海の魅力に強く惹かれ、また奥深い自然を理解したいという思いから、東京大学工学部土木学科で海岸工学を学んだ。子どもの頃から疑問に思っていた不思議な現象がなぜ起こるのか、その仕組みを学ぶことがたまたま楽しくなったという。同大学院修了後は、横浜国立大学で教鞭

を執り、1987年に東京大学に戻ると、2009年から2010年度まで副学長を務めた。「自分の好きなことをひたすら突き詰めていたら、ここまで来ていました」と磯部先生は自らの研究人生を振り返る。

### 美しく安全な海岸づくりは砂浜の保全から

日本全国の海岸を知り尽くし、日本中ほぼすべての海岸に足を運んだという磯部先生が考える良い海岸の条件は、防災、自然・生態系、利用の3つがうまく調和していること。そのカギになるのが「砂浜の保全」だという。

砂浜があることで、波のエネルギーは軽減され、津波や高潮などの自然災害に対する緩衝地帯となり、防災に力を発揮する。また、砂浜には海岸独特の生態系があり、豊かな自然環境を支えている。そして、海水浴やマリンスポーツなど砂浜がなければできない活動がたくさんあり、利用されることで場も生きてくる。しかし、「世界中の砂浜は年々減少している」と磯部先生は警鐘を鳴らす。高知県の砂浜でも、砂不足によりウミガメが産卵できずに海に戻ってしまうケースが増えている。堤防などの構造物により、川からの砂の流れを止めていることが原因の一つだと考えられているが、防災に偏りすぎることなく、3つの機能のバランスがとれた「美しく安全でいきいきとした海岸」をめざし、磯部先生はその方策を練っているところだ。

「学問は奥が深く、やればやるほど面白くなる。その楽しさをぜひ大学で味わってほ

しい。難しいことからいきなりやろうとするからつまらないんです。自分がおもしろいと思えるところから学んでいけば、自然と花開いていくものなんですよ」。

最後に副学長として本学での抱負を聞いてみた。

「世界から見れば、東京も高知もそんなに距離は変わりません。広く国際化を進めて、「世界一流の大学」をめざしていきます」。

そう語る磯部先生の目には、太平洋に面した高知の地から「決して遠くない世界」がはっきりと見えているようだ。



### センセイの趣味

#### まだ見ぬ海岸をめざして世界中を飛びまわる

日本全国はもとより世界各地の海岸にも足を運んでいる磯部先生は、プライベートでも海岸を訪れことが多いそうだ。「海をずっと眺めていると、ほっとするんですよ」というが、やはり研究者ゆえ、ただぼんやりと眺めることは難しいのだろうか。「どうしても“波の変形”などに目がいってしまっただ変です」と苦笑する。磯部先生にとっては、大好きな海が自らの研究につながっていることが何よりの喜びなのだ。

磯部雅彦

好きをとことん究めれば、自分のものになっていく。

磯部雅彦 副学長

調査用カメラを使用して、現場の空中写真調査を行っている。

KUTのNEWSをピックアップ!  
 彩りゆたかな学生たちの、  
 旬な情報をお届けします。

## 平成 25 年度入学式 広く深く。豊かな人間力を育もう

4月3日(水)、本学講堂において平成25年度入学式が行われ、学士、大学院修士、博士後期の各課程と3年次編入生計631名が、本学での学びへの一歩を記しました。

佐久間学長からは、「高知工科大学の優れた教育システムの下で勉学に取り組み、自己の研鑽に努めてくださるようお願いする。それとともに、異分野の人々との交流あるいはクラブ活動等を通じて、視野を広める努力を心がけるようお願いしたい。このような努力は、個々人の知識を深めて、自ら考える力を身につけることにつながる」との告辞がありました。

これに応じて、入学生代表の情報学群 甲原春花さんは、「先生方や学友とのふれあいの中で豊かな人間力を育み、自分を磨くことに専念し、社会に必要とされる人材となるため、学業に励むことを誓います」と、力強く宣誓しました。



入学式の後、本学キャンパスグリーンにて祝賀イベント「Welcome工科大」が開催され、鯉のたたきなどの郷土料理がふるまわれる中、よさこい演舞などのライブが披露されました。



WELCOME TO KUT!



## 2 国際人を目指し、異文化体験! 海外研修 in Thailand

国際的見識を深め、英語によるコミュニケーション力を向上させようと、3月17日(日)～24日(日)まで、海外研修をタイで行いました。学内から選抜された10名の学生たちは、10回を越える事前研修を終えたあと、昨年国際交流協定を結んだ泰日工業大学(TNI)と、長年にわたり国際交流のあるタマサート大学シリントン国際工学部(SIIT)で、日タイの交流の歴史や、タイ人学生との意見交換などを行いました。英語での日本文化のプレゼンテーションで特に好評だったのは、実演もありのよさこい踊り。伝わることの楽しさや、授業はすべて英語というタイの学生たちに、研修生たちの英語力向上への意欲はますます高まったようです。

学外研修では、トヨタ自動車タイ工場を見学し、日本ブランドの強さや日本工場との違いを学習し、また、王宮を訪れるなど、タイの奥深い歴史にも触れることが出来ました。

### KUT MEMO

#### 海外研修ってなに?

本学では海外の大学や研究機関と活発な交流を行っており、毎回10～15名程の学生を旅費・滞在費等大学負担で派遣しています。学修に対するモチベーションを高めるとともに、外国の文化を理解し、国際的見識を深め、英語によるコミュニケーション力を向上させることが目的です。



①SIITの学生たちとアユタヤ遺跡前にて②ルアン・ポー・ソートン寺院内③Klong Suan Floating Market(100年市場)は活気あふれる庶民的小店がたくさん!④SIITキャンパス内の競技施設(スタジアム)前⑤TNIの学生たちとルアン・ポー・ソートン寺院前にて





高知工科大学の活動報告

# KUT INFORMATION

SPRING - SUMMER  
2013

KUTの学生たちが取り組んでいる様々な活動や、先生方の研究成果等を一挙に報告します!

## キング・モンクット工科大学(ラッカバン)と大学間交流協定を締結

高知工科大学は、タイのバンコクにあるキング・モンクット工科大学ラッカバン(KMITL)と、教員・研究者、学生、学術情報の交流及び共同研究活動に関する大学間交流協定を締結しました。これで本学と協定を結んだ大学は、10カ国、33大学となりました。

5月16日(木)、バンコク・ラッカバン区で行われた交流協定書の署名式には、本学から国際交流センターの先川信一郎特任教授が出席し、佐久間健人学長が署名した協定書にKMITLのタウィル・パンマ学長が署名。パンマ学長は、「教授・研究者、学生の交流の拡大と一緒に考えていきましょう。そのためにラッカバンでは、英語による講義を増やしていきます」と、相互交流に強い期待感を示しました。

ラッカバン工業団地には日系企業の工場も多く、ますます強くなると思われる日タイ交流に、本学も一役買うことになりそうです。



## 汗を流して活動の意義を再認識 物部川環境保全活動に参加



物部川は、山の保水力低下による渇水や、植物の減少による土砂流出にともなう濁水などの問題が起こっています。物部川流域にある本学も、物部川の環境保全活動に加わっています。

4月28日(日)には、三嶺の森をまわるみんなの会、高知中部森林管理署主催による「シカ被害防止ボランティア活動」に、学生・教職員あわせて約80名が参加しました。三嶺地域におけるシカの生息頭数急増による食害は、広範囲・多方面に影響を与えています。作業班は、香美市物部町の三嶺山系白髪山山頂付近でササ原の回復を目指した防護ネットの設置と、樹皮を守るラス巻き作業を行いました。作業終了後は地元香美市林業婦人部の方々により振る舞われた「猪汁」に舌鼓を打ちながら、一日の作業を振り返りました。

## また、6月2日(日)には、21名の学生・教職員が香美市物部町別府山国有林で行われた「物部川の水づくり～みんな



で広葉樹の森をつくらう～」の活動に参加。この活動は、「物部川21世紀の森と水の会」の主催で、森林と水への関心を深めようと毎年開催されています。ミズキやアカンデなどの有用樹種を残し、他の雑木を伐って、両者に成長差をつけることで有用樹種の成長を促し、広葉樹の森を育てる森づくりです。今回の作業の成果は今年の秋頃には現れてくるはず。

想像以上の重労働となった作業にも、「大変だったが、勉強になった。次の機会も参加したい」という頼もしい学生も。本学は今後も、活動が実を結ぶことを祈りつつ、継続的にこの課題に取り組んでいきます。



## 原付初心者諸君、気をつけて バイクの安全教室を開講

5月19日(日)、本学のドミトリー(学生寮)の学生を対象としたバイクの安全教室が香美警察署主催で開講されました。

当日は、南国自動車学校に原動機付き自転車(原付)を所有する寮生24名が集まりました。今回参加したほとんどが原付に乗り始めて間もない1年生であり、講習の内容も基本的な交通ルールの確認に重点が置かれました。前半は、見落としがちなブレーキオイルの確認など日常点検について講習を受けた後、2班に分かれて、コーナリングや縦列走行でウォーミングアップ。後半は自動車学校の講師の方々による原付の巻き込み事故の再現とその防止対策についての実演が行われました。閉講式では香美署の中澤交通課長が、本学学生の関わった事故にも触れ、参加した寮生は交通ルールの重要性を実技と講和を通して再確認した様子でした。

## AO入試スポーツマネジメンプログラム、特別推薦入試で入学のツワモノたちを激励

4月24日(水)、平成25年度マネジメント学部AO入試スポーツマネジメントプログラム、特別推薦入試入学者激励会が開催されました。岡村理事長、佐久間学長はじめ、過年度特別推薦入学者など、総勢150名程が参加し、新入生を激励しました。マネジメント学部AO入試スポーツマネジメントプログラムと特別推薦入試は、スポーツ分野等において一定の実績がある者を対象にした試験で、今年度は、併せて40名が入学。学生たちは心身ともに鍛えることができるという部活動の意義について、改めて実感している様子でした。

## 春の交通安全キャンペーンに参加

新入生が多い4月は、交通事故が起こりやすい時期。4月6日(土)、10日(水)両日、香美市内で実施された春の交通安全運動に15名の本学学生が参加しました。6日の香美警察署と交通安全協会香美支部主催のキャンペーンは、餅つきからの活気あるスタート。信号の三色セットのお餅を、香北道の駅美良布前でドライバーのみなさんに配りました。香美警察署と大学が合同で実施した10日のキャンペーンでは、遠藤峻くん(情報学群2年)が元気よく開催宣言。KUTオリジナル交通安全祈願の軍手などを配りながら、交通安全を呼びかけました。



## 母国の文化再発見も 留学生日本文化研修を実施

本学では、在籍している留学生を対象に、日本文化の体験や歴史的文化施設の訪問等を通じ、広く日本を学ぶ研修を行っています。4月・5月の2回にわたり、今春入学者を含む留学生と国際交流に関心の高い日本人学生らが「日本文化研修」に参加しました。4月28日(日)は南国市の国分寺を訪問し、寺に縁のある高知の歴史的人物についての講話をうかがいました。5月26日(日)には五台山の竹林寺宝物館で、藤原時代から鎌倉時代にかけてつくられた仏像(全て国重要文化財指定)を見学。中国やタイからの留学生たちは、自国の仏教文化との違いや共通点に興味を示していました。



また、それぞれの研修で生け花体験、お茶会体験も実施。4月には高知県華道協会の先生方による指導のもと生け花を、5月には土佐石州流の先生方のご指導のもと茶道をと、留学生たちが日本の伝統文化を体験しました。

また、それぞれの研修で生け花体験、お茶会体験も実施。4月には高知県華道協会の先生方による指導のもと生け花を、5月には土佐石州流の先生方のご指導のもと茶道をと、留学生たちが日本の伝統文化を体験しました。



## 本学の最先端技術にも脚光 国内最大級の展示会に出展

東京ビッグサイトで開催された二つの展示会に、本学も研究成果を出展し、注目されました。

『BIO tech2013 第12回国際バイオテクノロジー展』(5月8日(水)～10日(金))は、最先端バイオ技術の展示会。本学からは榎本恵一教授(環境理工学群)のスギ花粉症の安全な治療についての研究を出展。榎本教授は、「安全に経口投与できるワクチンへの利用が考えられる」としています。

『スマートコミュニティJapan2013次世代自動車展』では、大塚幸男教授(システム工学群)の新コンセプト超小型電気自動車「Micro AERO」(マイクロエアロ)の試作車両を展示。また、高い寸法精度の鋳物を短時間に大量に生産する鋳造方式である新ダイカストプロセス「SynchroCAST」(シンクロキャスト)についても紹介しました。

## 本学地域連携機構が主催 南海トラフ巨大地震対策を推進

4月2日(火)、「第3回 高知県地震・津波対応検討委員会」が、地域連携機構の主催により本学で開催されました。

南海トラフ巨大地震の被害想定が新たにされ、高知県や各自治体に具体的な対策が求められている現在、学識経験者からの提言の重要性はさらに高まっています。委員会では、高知県危機管理部南海地震対策課 堀田幸雄課長より「高知県の地震・津波対策の取り組み」、本学 甲斐芳郎教授より「高知県を対象とした統合地震シミュレーション」、東京大学生産技術研究所 目黒公郎教授からは「具体的な地震・津波対策」と論点が提供され、約30名の参加者らは活発な質問や議論を展開していました。

本学地域連携機構は、地域への貢献のために活動を強化していきます。今後このような勉強会形式も含めた防災・減災対策の機会を設けてまいります。



## 学生と地域の人を使いやすい 鏡野公園バス停が完成



鏡野公園南に位置するバス停「工科大入口」に、待合所が整備されました。これは高知工科大学後援会が事業の一環として大学に寄贈したもので、高知工科大学入学式にあわせ、そのお披露目と寄贈の式典が行われました。

これは、地域と共生する大学にふさわしく、学生と地域住民にとって利用しやすいバス停整備を目的に、吉田晋准教授(システム工学群)がデザイン・設計を手がけ、高知県中央土木事務所のご協力を得て実現したもので、高知工科大学後援会事業の一環として大学に寄贈する形で設置されました。なお、事業費の一部を「高知県木の香るまちづくり推進事業」補助金を活用いたしました。

## 土佐の有用植物を学ぶ第一回 『食のキャラバン』開催

本学地域連携機構は5月23日(木)、第1回「食のキャラバン」を、香美市香北町谷相地区で開催しました。

高知県の植物は多様性に富みますが、数百種に及ぶ有用植物は未開拓のまま。地域連携機構では、補完薬用資源学研究室(室長:渡邊高志教授)を中心に、これら植物資源の発掘から商品化までを一貫して進める試みを行っています。そこでこれまでの研究成果の中からいくつかの植物をとりあげ、県内巡回の体験型報告会「食のキャラバン」を、1年間にわたり全6回、各地域関係者のご協力のもと開催することとなりました。

当日は、渡邊教授のガイドのもと、飢饉に備える知恵として広まった「救荒植物」と呼ばれる身近な植物を採集し、食材ハンティングを体験。次に実際に調理し、食し方を学びました。今後の開催については、大学ホームページで発信していきます。ぜひご参加を。



## 「土佐山田へようこそ」 外国人学生が香美市長を表敬訪問

高知工科大学に今春入学の博士後期課程の外国人留学生7人が4月25日(木)、香美市の門脇夫市長を表敬訪問しました。市長は留学生と、同行の国際交流センター(IRC)スタッフらをあたたかく歓迎してくれました。

中国、ミャンマー、パキスタン、カンボジア、ベトナム、タイ、ガーナ出身の学生達はそれぞれ自己紹介の後、香美市土佐山田町の快適な生活について語りました。

門脇市長は、香美市の主要産業は農業、林業であり、自身も農作業が好きであることや、同市の過疎化が課題となっていることに触れ、留学生たちが土佐山田に住むことを歓迎する意向を示しました。この後、一行は香美市役所内と市議会を見学。市役所から見える周囲の山並みの景色を楽しみました。地域の人たちや自然とのふれあいに、留学生たちの期待は大きくふくらんだようです。



**本学で国際化学オリンピック  
日本代表が訓練合宿**

世界中から選ばれた高校生が集まり、化学の知識と応用能力を競う「第45回国際化学オリンピック」は、今年7月、ロシアで開催されます。化学グランプリ・オリンピック委員会・オリンピック小委員会は、5月25(土)・26日(日)本学で、代表生徒の強化訓練合宿を行いました。本試験では、代表生徒はそれぞれ5時間に及ぶ実験試験及び筆記試験に挑み、その合計点を競います。今回の合宿では実験試験を想定。高校の授業レベルを超えた高度な実験試験に対応できる技術や考え方を実践的に習得することを目指しました。実験設備や薬品を駆使して課題解決に取り組む代表生徒を、指導の先生たちも真剣な表情で見守りました。前回のアメリカ大会で日本代表は、金メダル2銀メダル2を獲得しました。今大会でもさらなる好成績が期待されます。



**国際学会で堂々のプレゼンテーション  
本学大学院生が学生賞受賞**

3月1日(金)～2日(土)に東京大学で開催された国際学会「International Thin-Film Transistor Conference(ITC-2013)」において、大学院工学研究科博士後期課程 基盤工学コースJiang Jingxinさん(古田守研究室)が「Student Presentation Award」を受賞しました。これは、発表した「Influence of Front-and Back-Channel Traps on Electrical Properties of Oxide TFTs with Various Channel Thicknesses」が、近年事業化に向けて活発な研究が行われている酸化半導体トランジスタの動作特性をデバイスシミュレーションで解析し、これまであまり重視されていなかった領域の欠陥が動作特性に大きな影響を与えることを明らかにした点が高く評価されたもので、ポスター発表55件のうち、3件のStudent Awardに選ばれました。



**織田哲郎氏が楽曲提供  
よさこい踊り子隊、今年も始動!**

高知の夏を彩る「よさこい祭り」[高知工科大学よさこい踊り子隊]も例年以上のエネルギッシュなパフォーマンスで観客のみなさんを魅了しようと、本格的な練習を始めました。今年にはシンガー・ソングライター織田哲郎氏による楽曲提供という、第60回の開催にふさわしいトピックスを携えての参加です。高知県出身で、「よさこいの地方車(じかたしゃ)に乗ってギターを弾くのが長年の夢だった」という織田氏。織田氏からのオファーにより、ミュージシャンと学生の共演が実現しました。学生らによると「自分達のイメージを全て受け入れてくれた上に、これまでにない壮大なスケールの曲が完成し、聴いた時には感動で涙が出た」。8月の本番では「踊り子隊の一員」として織田氏の演奏もご覧頂ける予定です。KUT踊り子隊に今年もご注目ください。



**男子バスケットボール部が  
全四国大学新人大会で準優勝**

5月11日(土)、12日(日)に行われた「平成25年度全四国大学バスケットボール新人大会」(主催:全四国大学バスケットボール連盟 会場:高知工科大学、高知県立青少年センター)で、バスケットボール部(男子)が準優勝しました。

2回戦は強豪松山大学に93-88の僅差で逃げ切り、準決勝は香川大学に延長戦の末69-66で勝利、決勝進出を決めました。今大会は地元開催で、大会運営等大変でしたが、男女バスケットボール部全員で円滑な大会運営に貢献しました。

「決勝戦の高知大学戦は負傷者も多く、本来のチーム力を出せず惨敗してしまいましたが、強豪校に勝利できたことは私たちの自信に大きくつながりました」と大会を振り返る主将の木原秀介君(マネジメント学部3年)。「大学事務局はじめ地元企業さんの協力を頂き、関係各位に感謝申し上げます」と謝辞も忘れませんでした。

**天皇賜杯・皇后賜杯全日本選手権大会へ!  
ソフトテニス部が快挙!**

5月12日(日)香川県生島テニスコートで行われた「第50回四国ソフトテニス選手権大会」(四国ソフトテニス連盟主催)一般男子の部で、本学学生ペアがみごと優勝し、第68回天皇賜杯・皇后賜杯全日本選手権大会への出場権を獲得しました。

快挙を成し遂げたのは後藤真生紀君と中川湧介君(共にマネジメント学部1年)。「今回の大会は1回戦から苦しい戦い続きで、いつ負けてもおかしなかったのですが、優勝できて本当にうれしかったです。試合では、1戦1戦最後まで集中したこと、他のチームメイトの応援のおかげで優勝できたと思います。高知工科大学が全国上位入賞することが目標です」と、日々練習に励んでいます。また、四国学生春季ソフトテニス選手権大会の大学対抗戦でも男子2位、個人選手権では男子優勝という好成績を残しています。



【大会日程】  
◎第68回天皇賜杯・皇后賜杯全日本選手権大会  
10月25日(金)～27日(日) 茨城県神栖市

**四国を制し、西日本大会へ  
祝優勝!KUT男子ソフトボール部**

5月25(土)・26日(日)の「平成25年度全日本大学男子ソフトボール選手権大会四国予選会」(主催:四国地区大学連盟 会場:愛媛県八幡浜市市民スポーツパーク)に出場した本学男子ソフトボール部は、愛媛大学、香川大学に5回コールドで圧勝し、見事優勝。2年連続で西日本大会・全国大会への出場権を獲得しました。

主将の坂東滉紀君(システム工学群3年)は、「この結果も部員ひとりひとりが目的をもち、毎日の練習を積み重ねることができたから。8月に西日本大会、9月に全国大会が控えているので一勝でも多くできるように、これからの練習を頑張っていきたい」と今後の意気込みを語ってくれました。

【大会日程】  
◎西日本大学男子ソフトボール選手権大会  
8月9日(金)～12日(月)  
鹿児島県南九州市  
◎全日本大学男子ソフトボール選手権大会  
9月6日(金)～9日(月)  
大阪府大阪市他



**男子バレーボール部が大健闘  
中国四国学生バレーボール選手権大会3位!**

男子バレーボール部が、5月25日(土)～5月27日(月)に行われた第57回中国四国学生バレーボール選手権大会(主催:中国大学バレーボール連盟 四国大学バレーボール連盟 会場:愛媛大学体育館ほか)で3位という結果を残しました。

同部は出場2回目ですが、チームが一丸となって戦い、準決勝に進出しました。福山平成大学戦はストレートで敗れましたが、3年生以下の若いチームの大躍進に選手一同も自信となったようです。「この結果に満足せず、まずは四国内の大会で優勝し、全国大会でも上位に進出できるよう練習に励んでいきたい」と抱負を熱く述べる同部主将の川北真徳君(環境理工学群2年)。「今後もたくさんの方々に愛されるチームを目指し、チーム一丸となって頑張りますのでご声援の程、よろしくお祈りします」。



**継続的な活動を目指しています  
ココイコ!プロジェクト始動**



学生が農作業や祭事運営を通して地域の方々と交流する「ココイコ!プロジェクト」が始まりました。学生たちがお世話になるのは、本学から車で1時間程の距離にある香

美市物部町神池地区。高齢化の進む同地区で様々なお手伝いを経験しながら、コミュニケーション力や課題発見力を培うことを目的としており、香美市の協力のもと昨年末から企画を進めてきました。今春は、約40名の学生が応募しています。

地域の方々と11人の学生との初顔合わせとなった5月18日は、4月にあがった鯉のぼりをおろしたり、茶摘み・釜煎りのお手伝いをした後、地元「おかあさん」たちにより振る舞われた手料理を堪能しました。

単発のボランティア活動とは一線を画し、継続的な活動を目指しています。地域と学生との関わりかたを探るため、まず今年度は、生活道の整備(草刈り)や祭り・敬老会・ふるさと会といったイベント運営など、学生が地域に入る機会を設けながら、今後の計画も決めていく予定です。

このプロジェクトによって学生たちが何かを見つけ、感じ、成長していくことを期待しています。活動についてはこの誌面でも引き続き報告してまいります。

**オープンキャンパスのお知らせ**

**OPEN CAMPUS 2013**  
7/21 日 10:00～16:00  
8/4 日 10:00～16:00

**「未来はここで生まれる」**

「日本にない大学」を体験する一日!今年もオープンキャンパスを開催します。当日は、おもしろ体験授業、研究室自由訪問、先輩が案内するキャンパス見学ツアー、教育システム・就職サポート・国際交流紹介、部活体験、入試・奨学金相談コーナーなどたくさんのイベントを準備しています。

**FREE BUS**  
大阪、姫路、岡山、広島、福山、徳島、高松、丸亀、松山、新居浜の各地と高知工科大学を結ぶ無料送迎バスを運行します。  
※乗車には申込みが必要です。

入試 広報部 0887-57-2222  
[http://www.kochi-tech.ac.jp/kut/entrance\\_examination\\_UGS/opencampus.html](http://www.kochi-tech.ac.jp/kut/entrance_examination_UGS/opencampus.html)

**イイセンスイ** Vol.1.5

先生自身が日々感じていることを、ちょっとイイセンスイ語ってもらいました!

今回言い過ぎる人  
たちばな まさよし  
**橘 昌良** センセイ



**今** から三十年以上前、まだ学部の学生だった頃の話。ある先生に「大学というのは勉強の仕方を学ぶところだ」と言われたことを覚えている。考えてみてほしい。大学を出て二十代前半、引退が六十代の後半とすると、四十年以上働くことになる。その間、大学で得た知識だけで済むとはとうてい考えられないだろう。

高校までは、教えられたことをそのまま出来れば良い成績を取ることが出来た。教える側も内容は決められているので、それがきちっと出来ていけば問題無いわけである。

ところが、大学ではこのようにはいかない。範囲が無いのだ。そして、新しい技術はどんどん増えている。さて、どうする?

基礎は何年たっても変わらない。物理法則が変わらない限り変わらない。だから、変わらない。しかし、その先はどうなるかわからない。大学で教えられているのは、基礎の部分と、今使われている比較的新しい技術のなかでこの先も使われ続けると「教員」が考えているものなのだ。その先はどうするかと言えば、「自分で勉強しなさい」と言うことになる。

自分で勉強する方法、もう少し格好の良い言葉を使えば、「知識を獲得する方法」は人それぞれ異なるものだろう。万人に共通する方法はたぶん無く、さらに言うと、残念ながら他人に教えることも難しいようだ。つまり、「知識を獲得する方法」は自分で見つけるしか無いようだ。

個人的な経験話をすると、大学の時には専門から離れた本、文学作品とか、言語学や歴史その他のいわゆる文系の研究を易しく解説した本、その他色々読みあさった覚えがある。ちょっと古い映画を見まくるというのもやった。今となっては、ドストエフスキー、マルセル・ブルースト、ジェイムス・ジョイスを読み通す気力もなければ、エイゼンシュテインや小津安二郎の映画を続けて見る気力もない。しかし、若いときはそれが出来たわけである。それが「知識を獲得する方法」を獲得するのに何の役に立ったかと言えば「よくわからない」としか言いようがない。

しかし、よくわからないもの、自分の知らないものを何とか読みこなす力がついたような気がする。さらに、講義の内容を勉強している内に何となく自分なりの「知識を獲得する方法」を身につけてしまったような気がする。

オシマイ

いくつになっても日々勉強ですね!



イイセンスイ  
高知工科大学  
広報担当 前田さん



4月3日(水)、入学式終了後、本学講堂にて平成25年度高知工科大学後援会総会が開催されました。

本学の蝶野学生本部長の挨拶の後、上村理事の退任に伴い、新役員に五百蔵幸雄氏、中尾久美子氏の2名が選任されました。議事では、平成24年度事業報告・決算報告及び平成25年度事業計画・予算についての審議が行われました。

■平成24年度決算

《一般会計》 (歳入の部)					(単位:円)
科目	予算	決算	増減	摘要	
会費	25,266,000	24,028,000	1,238,000	50,000円×新入生474名、38,000円×編入生6名、25,000円×兄弟半額4名	
雑収入	50,000	308,945	△258,945	預金利子・同窓会より交流会代替	
過年度収入	300,000	50,000	250,000	50,000円×2-4年生1名	
特別会計繰入金	11,800,000	11,800,000	0	平成24年度卒業記念事業費等	
繰越金	1,636,486	1,636,486	0		
合計	39,052,486	37,823,431	1,229,055		
《一般会計繰越金					2,393,034

《特別会計》 (歳入の部)					(単位:円)
科目	予算	決算	増減	摘要	
前年度からの積立金	53,956,962	53,956,962	0		
一般会計繰入金	11,000,000	11,000,000	0	卒業記念事業費、周年事業費等	
合計	64,956,962	64,956,962	0		
《特別会計繰越金					53,156,962
次年度繰越金総額					55,549,996

■平成25年度予算

《一般会計》 (歳入の部)					(単位:円)
科目	予算	前年度予算	増減	摘要	
会費	25,568,000	25,566,000	2,000	50,000円×新入生500名、38,000円×編入生11名、過年度生3名	
雑収入	50,000	50,000	0	預金利子等	
補助金等	1,995,000	0	1,995,000		
特別会計繰入金	11,000,000	11,800,000	△800,000	平成25年度卒業記念事業費等	
繰越金	2,393,034	1,636,486	756,548		
合計	41,006,034	39,052,486	1,953,548		
《一般会計繰越金					2,393,034

《特別会計》 (歳入の部)					(単位:円)
科目	予算	前年度予算	増減	摘要	
前年度からの積立金	53,156,962	53,956,962	△800,000		
一般会計繰入金	20,000,000	11,000,000	9,000,000	卒業記念事業費、周年事業費等	
合計	73,156,962	64,956,962	8,200,000		
《特別会計繰越金					53,156,962
次年度への積立金					62,156,962
合計					73,156,962

事業報告については、従来より行っている学生の課外活動や就職活動に対する支援のほか、高知県が全国に先駆けて提唱している協働の森事業に対する支援について報告がなされました。

今年度も、引き続き学生の課外活動や就職活動への支援、地域交流事業等へ助成を行うことなどが承認されました。なお、平成21年度に完成しました大学応援歌は、総会にてCDが配布され、今後も様々な場面で演奏される予定です。平成24年度決算及び平成25年度予算は下記のとおりです。



〈協働の森〉シカ食害ネット張り



〈鏡野公園バス停 待合所設置〉



〈よさこい祭り参加〉

■後援会費納入のお願い

後援会は、保護者の皆様からの会費をもちまして、学生が有意義な学生生活を送れるよう支援する事業を行っております。会費を納入されていない方が若干おいでになりますので、会費の納入について御理解と御協力の程、よろしくお願いたします。

会費は、学生活動(大学祭・クラブ活動・図書館書籍の整備など)や就職活動の支援、また、卒業記念品(卒業アルバム)の作成などに使わせていただいております。

なお、兄弟姉妹で在学中の方は、あとで入学された方の会費の半額を返還しております。兄弟姉妹で在学中の方は、学生支援課(0887-53-1118)へご連絡ください。

エコサイクル&ドミチヤの秘密

やっぱりすごかった! ハイテク地下駐輪場潜入!

今回は、ドミトリー(学生寮)用地下駐輪場「エコサイクル」と、そこに収容されているレンタサイクルについてです。使用しているドミ生(ドミトリー学生)も知らない「裏側」取材してきました!

新任(四代目) 学生特派員 右から 國元 美優(環境理工学群2年) 西本 高志(情報学群2年) 中村 真也(情報学群2年)



その名もドミチヤ

レンタサイクルは、学生の間ではドミトリーのチャリリドミチヤの愛称で親しまれています。最寄りのコンビニまで徒歩20分、スーパまで45分という立地のKUTでは、ドミチヤは必要不可欠なドミ生の「足」なのです。

実は2代目

カードをかざせば自転車が出てくる、そんなハイテクなエコサイクル。実は今のものは2代目だと分かりました。1998年6月に始動した初代機は、本県の(株)技研製作所の試作品を寄付して頂いたもの。ドミ生個人所有の自転車を駐輪する仕組みで、ドミ生238名に対して126台と収容可能台数が不足していました。そこで2011年のリニューアルに伴い、レンタサイクル形式に切り替え、共有することで、収容台数の課題をクリア。実際にはピーク時でも出庫数は80台程度と



カードをかざすと自転車が出し入れできる驚くべきハイテクシステム! このエコサイクルは東京の品川駅前の地下駐輪場等にも活用されています。

デザインと機能美

システム工学群の重山陽郎先生がデザインしたエコサイクルの建屋は、景観との調和をはかる美しいデザインに、くわえ、屋根の天板を凹型にして水を流すことで、雨樋を排したり、工学を学ぶ学生に配慮して、あえて装置の機構を覗くことができるように壁面をガラス張りにするなどの工夫がなされています。

ドミチヤの「コ」がすごい!

ドミチヤはKUT近辺の起伏の激しい環境に備え、丈夫な特注品。修理をお願いしているサイクル&バイクサロン、フルカワの古川正清さんも「タイヤ、ボディから細かい所まで本当に良い部品と絶賛です。ハンドル中央部にひと際大きな存在



感を持つKUTのエンブレムは、ドミチヤであること主張。盗難防止にも「役立つ」です。ちなみにこのエンブレム、金と銀のものが1台ずつあるのです! 重山先生は「ラッキーゴールド、ハッピーシルバーです。乗った後良いことがあったら、ぜひ教えてほしいですね」と楽しそうでした。

ドミ生に伝えたいこと

今年3年目に入ったドミチヤですが、その状態は良好だそう、「大事にしてくれていることに感謝しています」と施設管理部の丸岡さん。月に34台発生するというパンクは予想以上で驚いたと言いますが、それ以外の修理はほぼ無いそうです。

そんな丸岡さんとは逆に「パンクは少ないねえ、10倍あってほしいよ」と古川さん。ドミ生が大切に扱っているのだと感心されていました。「遊びに来て、おしゃべりしていいよ」とも。多くの想いと工夫が込められたエコサイクル&ドミチヤ。これからも隠れたKUTのシンボルとして、大切にしてほしいです。

ジ ッ カ ン n o t e

西本「ドミチヤ、こんなにすごいとは思わなかった...! 見る目が変わるわ!」  
國元「一つ一つに無駄がなくて、工夫の塊って感じやったよね!」  
中村「ドミチヤをただ使うだけじゃなくて、横から見える機械の動きを見て楽しむのも良いかも!」



# がんばらうネ! 工科大⑨

M a c h i n o KUT Ouen-Dan Report



ただいま高知県では、高知県  
振興キャンペーン「高知家」の真っ最中。



今回のインタビュアー  
学生支援課 弘末尚史

今回のインタビューは、本学2期生であり、現在、高知県庁の職員で地域支援企画員香美市担当として地域を走り回っている東崎正哲さん。東崎さんとは、学生支援課の担当として、また、同じフットサルチームのメンバーとして個人的に顔を合わせる機会も多く、公私ともに付き合いがありまして、予想どおり熱い議論に発展しました。では、OBの初登場です。

—お久しぶりです。まずは、地域支援企画員とはどんなお仕事なのか教えてください。

**東崎さん** 分かりやすく言えば、県と市町村のパイプ役となって、それぞれの地域の実情や要望に応じた活動を行っています。とにかくあちこちに出向き、地域の活動を支援していく。自分の机に座っている時間のほうが圧倒的に少ないですね。

—最近、多くの工科大生が地域に関わるようになってきましたよね。

**東崎さん** 自分が学生のころに比べたら、本当に多くの学生が地域に入っているなと感じます。単位もお金も出ないところに目が向いているのは、正直すごいなって思います(笑)。これだけ多くの学生が継続的に地域に入ってくれているのは、やっぱり学生自身が地域に関わることによって自らの成長を、いわば“人間力”のようなものの向上を実感できるからだと思います。

—“人間力”と言えば、工科大の初代学長(末松安晴氏)も提唱していたと聞いています。地域支援に取り組んでいらっしゃる東崎さんからその言葉が出たのが印象的で、やはり“人間力”の向上のためには、社会との関わりが重要となってきますよね。

話は変わりますが、偶然にも香美市担当になったことで、工科大のOBであることが東崎さんの今の仕事に取り組む一つの原動力となっていると思います。その辺りの思いについて少し教えてください。

工科大OBだからいざできるといふ。それを考えるのが今の自分の使命の一つ。



応援団員 高知県地域づくり支援課地域支援企画員

## 09 東崎正哲さん

**東崎さん** 学生だったころは“工科大のために”なんて考えたこともありませんでした。地域交流に参加することもなかったし、特に目立ったことをしたわけでもありません。いわば“その他大勢の中の一人”でした。ただ、今の仕事を通じて地域に入っていくことで、住民の皆様が大学ができることによって新たに加わる若い力に、どれだけ期待してくださっていたかが分かり、その思いに応えるためにも、“工科大OBだからこそできること”について考えるようになりました。今では、工科大生をいかに地域に送り込むかが、自分の使命の一つだと思っています。

—なるほど。自分も学生に様々な形で地域と関わりを持ってもらいたいと日々考えているのですが、なかなか、最初の一步を踏みだせない学生も多いように見受けられます。もし、そんな学生の背中を押してあげるとすれば、どんな声をかけますか?

**東崎さん** 声はかけません(笑)。こちらはあくまできっかけを提供しているにすぎないので、いくら行政や大学が学生を引っ張っていったところで、最終的にやるかやらないかは学生自身の問題です。ただ、個人的な願いを言わせてもらうとすれば、どんな小さな気づきでもいいから、地域と関わることの意義を自分なりに見出して、自ら、主体的に動いて欲しい。私としてはその中で、地域と学生とのパイプ役になって、両者が協働して一つの課題に取り組むことで得られる相乗効果、それを生み出すお手伝いができればと思っています。

### インタビューを終えて AFTER INTERVIEW

いやー、本当は拡大版でお送りしたかったです(泣)。東崎さんの、日々の業務の中で「地域活性化とは?」という問いに対して、試行錯誤していく中で先が見えなくても熱意を持って取り組む姿勢は、僕たち若い世代には特に、社会人として仕事と向き合う上で見習うべきところだと思います。東崎さんには、これからも地域支援企画員として、また学生たちのいい兄貴分として、さらなるご活躍を期待しています。

